

DOLL FORUM JAPAN



DOLL FORUM JAPAN
ドール・フォーラム・ジャパン
NOVEMBER 1994 Vol.3

「蝶の妖精」
岩切 映幹子
Emiko IWAKIRI

CONTENTS

目次

【巻頭インタビュー・岩切 映幹子】	P2
【近況報告・三輪 輝子】	P4
【REVIEW】 マ・ドール・天愈会、ラ・パボーラ、杉山久江	P5
【人形つれづれ】 福島 弘太郎	P6
【人と形のあいだで・渡辺 純子】	P8
【ゲイルからの手紙】ゲイル・エニッド・ジマー	P9
【コンベンションレポート】 グローバル・ドール・ソサエティ	P10
【DFJ創刊の集い リポート】	P12
【インフォメーション】	P13
【近況報告・大谷 博子】	P14
【PINSPOT・グランパバ】	P15
【スケジュール】	P15
【FROM OVERSEAS】 ビルデガルド・ゲンツェル / ターニャ・バエバ	P16
【COMING ON THE SCENE・佐々文子】	P18
【教室案内】	P18
【LETTERS / DFJよりのおしらせ / 編集後記】	P19

ドール・フォーラム・ジャパン

1994年11月23日

ドール・フォーラム・ジャパン事務局発行

ドール・フォーラム・ジャパンは、日本のアーティスト・ドールを支援するために作られた非営利のドール・フォーラム・ジャパン事務局が発行する情報誌で、ユーラシア・ドールズのスポンサーシップと会費により、運営されています。

巻頭インタビュー

岩切

映幹子

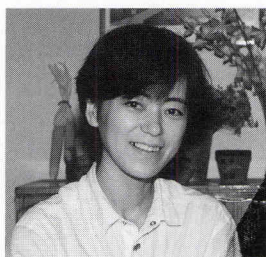
外の木のさわめきとか、

自然の空気に命のようなものを感じるとき...

妖精の人形は、そんなところからできました。



「木漏れ日の下」
(石塑、40cm)



— ご主人の克樹氏とお話していると、『映幹子は、本当に人形が好きで、好きで、作ってさえいられればそれで幸せみたいだ』と、よくお聞きします。

「そう見えるらしいですね。でもよく分からないんです。作ってばかりいるからそう見えるんでしょう。つくるのがもとと好きで、なぜ、人形なのかって聞かれると、困ってしまうんです。ただ、子供のころから粘土は好きで、土や、自分で作ったパン粘土でよく遊んでいました」

— どんなものを作ったのですか

「いつもいろいろな顔を作っていました。ものは作りませんでした。でも人形にしようとは思いませんでした」

— 大学では、人形を作っていたんですか？

「いえ。私は、立体デザイン科にいたのですが、自分はデザインに向かないのではないかと思っただけです。2年目に入ったとき、天野可淡や、四谷シモンの人形を見て、あ、人形にすればいいんだ、人形って自由で何を作ってもいいんだ、と思いました。それで、2年の夏休みから、人形を作るために1年休学しました」

— 人形だけのために？

「ええ。デザイン科は毎日課題が多くて、とても忙しいんです。休まなければ、時間が取れなかった」

— 誰かに習ったのですか？

「私って、自分勝手なので、だれかに教わろうという頭はなかったんです。学校で樹脂など扱っていたので、これで作れると思いました。あとは、見よう見まねで」

— それで、できた作品は？

「二体作ったのですが、一体は石膏で型を取り、紙で作った張り子で、セータを着て、ズボンをはいた女の子。二体目は、関節人形で、知らないものだから目玉にビー玉を使ったりしました。関節だったのは、四谷シモンの影響があったのかもしれない」

— 復学されてからも制作は続いたのですか？

「いえ、もう忙しくてできません

でした。ただ、岩切さん（克樹氏のこと）の卒業制作が人形だったので、それを手伝ったりしました。クラブの後輩だったのですが、先輩は先輩の制作に動員されるんです」

——では、克樹氏とは、人形のもりもつ縁なのですか？

「いえ、クラブが一緒だったというだけで、人形と一緒に作ろうという気持ちはありませんでした」——結婚されたのはいつですか

「卒業した年です。結婚してから私たちに作品展を勧める人がいて二人展ならこわくない、と銀座のタマヤギャラリーで行いました」——では、その頃からお二人で人形でやっていくことと？

「いや、人形ではとても暮らせません。といって、二人とも会社に就職してやっていける柄ではないんです。生活の方向性がつかめず、大変な二十代でした」

——量産品などを作っていくことなどは、お考えにならなかったのですか？

「量産品は気が進まないのです。人形は、他の人の手が入ると、違うものになってしまうのです。最初から、量産品のデザインを依頼

にに応じて作るのならよいのですが、私の作品をコピーするとすれば、全部自分でやらないと気がすまないんです。我がままなんです。それでは許されないから、たくさん作りますが。でも自分の中では、一体作れば十分なんです」——岩切夫妻の人形は、表面の和紙が大きな特徴ですね。

「はじめは石塑の補強で使ったのですが、和紙の光沢や風合いが気に入って、それからずっと使っています」

——伝統工芸の人形の方でも、表面に和紙を使う方がいますよね。

「ええ。でも使っている和紙が違ふと思います。私たちのものは、麻紙（まし）といつて、麻でできているんです。その荒さや厚みが気に入って使っています」

——制作のときに気をつけていることはありますか？

「和紙は光沢がいいのですが、汚れやすいので気をつけています。あと、作品の価格から、ある程度年数はもたねばと思っています。石塑も使いますが、樹脂は、かなり安心できますね」

——今、取り組みたいテーマは？妖精は作って見たかったんだけど

テレがあつて作れないでいました。与さんのも強烈でした。今回の「蝶の妖精」は妖精では「二作目」（一作目は「木漏れ日の下」）

——インスピレーションはどこから得ますか？

「特にこれといつてないんです。空気みたいなもので。私、ボーっとしてひなたぼっこしているのが好きで。外の木のざわめきとか、自然の空気に命のようなものを感じるとき……。妖精はそんなところからできました」

——映幹さんの人形は、リアルだけど、現実から逸脱しているように見えますね。



「現実の中でうまくないんで生きていけない個人的な面があるの、そうなのかな、と思います。見えないものをいかにもあるがごとく、表現してしまうのではないかと思います」

——人形の視線も、いつも遠い目をしているような気がするのですか？

「置いてあつても、人にとって負担にならずに空気のような人形がいいと思うのです。あまり主張されとつらい。」

——お好きな人形作家は？

「可淡さんののは大好き。与さんも、作っている姿勢はすごいですね」

——克樹氏と人形について話すことは？

「技術的なことばかり。人形自体については話しません」

——お二人の作品は、共通のイメージを感じますが、ご相談などしないのですか？

「ないです。こういうのを一人で作ろうと意識したことはありませんが、一緒に暮らしていて似てきってしまうのかもしれない」

——けんかなどしますか？

「ええ、もうしょっちゅう！

（笑）でも生活面でのことです。人形のことではしても仕方がないからしません」

——他に好きなものは何ですか？

「特にどれといつても……。私、音楽でも小説でも、どんなに好きでも名前を忘れちゃうんです。小説だとSF、音楽だったら、ロック系の男性ボーカルが好きですね。女性の声は苦手」

——内面的に男性的なのでしょう？

「そう、でしょうね。人形にしても、無理なくやってこれるものがこれだったということで、あまり頑張る性格じゃないんです。子供の頃の遊びの延長なんです。だから、今も遊ばせてもらっているようなもので、好きにさせてくれる岩切さんには感謝してます」

【略歴】

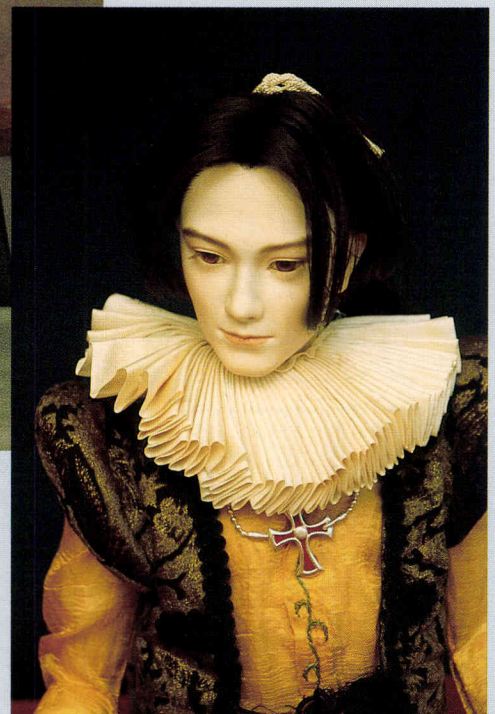
一九五五年 広島県生まれ
多摩美術大学立体デザイン科
卒業

岩切克樹氏と結婚後、若手人形作家を代表する二人として雑誌、TVなどで紹介されてきている。



三輪輝子 「天草四郎」磁器

12月7日から13日まで銀座松屋にて
「土と炎から生まれた三輪輝子創作ビスクドール展」を開催
写真の作品は、南蛮渡来当時の形を衣装に一部加え、
モデル探しから1年半を経て、完成した。
連絡先：東京都世田谷区砧8-26-1





5	3	2	1
		4	

写真 1: 荒木野馬 2: ラ・バンボーラより 3: 高橋操 (天愈会より) 4: 杉山久江
5: 熊倉聖祥 (天愈会より)

REVIEW

ノーマ・ドール エキシビションⅣ

(荒木 野馬)
10月2日〜10日
せ・ら・る (新宿)

荒木氏は美大(油彩専攻)卒業後、ス
テンドグラスの工房に勤めるかたわら、
球体関節人形の制作を始め、一九九一年
にはじめての個展を開催。その後、年に
一回というハイペースで個展を開きなが
ら、招待出品や、テレビ・映画の美術協
力なども行い、順調に創作活動の幅を広
げてきた。

今回の出品数は二十点(うち六点は動
物作品)。素材は石塑と桐塑。目はガラ
ス製の義眼の他、レジンによる手作りの
ものも使用されている。顔や体の造形も
さることながら、ノーマドールの大きな
特徴として、彩色と衣装の素晴らしさが
あげられる。荒木氏は自分の作品を「絵
画につながる造形のひとつ」ととらえて
おり、リキテックスあるいは油絵の具に
より、絵を描くように色を重ねていくと
いう手法で仕上げられている。また、衣
装も作品全体をひとつの絵画として見る
ことができるようにデザインがほどこさ
れており、そこに、さらに鳥や亀などの
ユニークな動物作品が加わることにによ
って、氏独特の作品世界が生み出されて
いる。そんな氏の作品は単なる人形を越え
たアートとしての感動を見るものに与え
てくれるようだ。(U・M/投稿)

【人形展の感想文募集】

原稿用紙一枚程度。採用された方に
は、リーセ・カードセットを進呈。
編集の都合上、原稿を修正すること
もあります。詳細は最終頁参照

天愈会△云展

10月26日〜31日
紫ギャラリー (有楽町)

全国の雛人形や市松人形の顔のオリジ
ナルは、ほとんどが熊倉聖祥氏によるも
のだという。その熊倉氏が三年前によび
かけて、素材や表現方法の壁を越えて、
誰が見ても美術的価値のある人形を目指
そうと、天愈会が結成された。今回は、
その四回目の作品展である。

当初は、人形職人が中心だったが、今
回出品したのは、熊倉氏、関口敬三氏、
阿部肥氏などの伝統人形の作家・職人か
ら、黒田由美子さんや高橋操さん、稲邊
智津子さんなどの若手のユニークな作品
も並んだ。

このように、ベテランの人形作家の呼
びかけで、若手の作品とクロスオーバー
する自主的な作品展は、今後の日本の人
形界にとって貴重なものだろう。

熊倉氏自身、常に新しい素材や表現方
法に取り組みながら、日本人形の持つ優
美な世界を表現する。定義付けは一切な
しとする、という熊倉氏の考えが極まれ
ば、いずれこの会は、「人形」という枠
も越えるかも知れないとのことだが、こ
のように、それぞれの方向性における試
みや問題提起は、天愈会だけでなく、多
くの場所で行われてほしいものだ。(小川)

高橋 節子と ラ・バンボーラ

10月19日〜24日
松屋 (銀座)

粘土人形の高橋節子さんと、彼女の率
いる教室「ラ・バンボーラ」の発表展が
松屋の大催事場で華やかに行われた。

毎回、教室の発表展として統一テーマ
に取り組むそうだが、今回は、ヨーロッパ
のピクトリアン・ファッションという
ことで、花やレースが一杯の作品展と
なった。魔法の連作などのような独自の
テーマに取り組んだユニークな作品もあ
り新たな可能性への取り組みが見られた
その他にも、世界中を駆けめぐるとい
う勢いの、高橋さん自身の意欲あふれる
作品も多く並んだが、その中でも、アジ
アの民族を意識した一連の作品群には、
何だかほっとするものを感じた。この会
では、粘土を通して、いかに多様な表現が
できるかということを追求しているそう
だ。また、次回の力作に期待したい。(小川)

杉山久江・博二二人展

10月25日〜30日
仙保画廊 (青梅市)

八年前に立川で、天野可淡の人形を見
たのがきっかけで、彼女の門をくぐり、
人形作りを始めた杉山さん。一年に一
二体とマイペースで作ってきた作品をた
めて、現代創像美術の会員であり、四十
年のキャリアのご主人の博氏の油絵の発
表とあわせて、静かな町で二人展を行っ
た。博氏が「可淡さんの人形は、とても
妖艶でしたが、うちのはどうも日本的に
なってしまうようです」という通り、師
の影響は見られるが、ご本人の温かな表
情が反映され、ひとつの個性になってい
る。

創作することが好きで、油絵、バン粘
土とやっていたが、中でも人形が一番気
にいらっている。数年前、師を突然失った
ショックは大きかったが、その人形の美
しさに目を見張った頃の感動を忘れず、
これからもずっと人形を作っていきたい
と語っていた。(小川)



イジイ・バルダ監督「見捨てられたクラブ」より

連載コラム

人形つれづれ

(第3回)

福島弘太郎

以前この本の編集長である小川さんとお会いして人形に関する様々な雑感をまとめたコラムを作ろうという話になったときに、その表題をとりあえず「人形つれづれ」としておきました。適当なのが見つかったら連絡しますからと言っているうちに、なんとなくそのままになり、しまったのですが、この締まりのない題も、普段の自分が取り留めも無く考えているさまをうまく表しているので、当分のままにしておくつもりでいます。

形さんの名ものであったのが何か引つ掛かりました。

「人形は心の入れ物」という言い方がありますが、これを作り手側から捉えれば、人形はメッセージの媒体であるという事になります。確かに作者の意図が明確に伝わればそれは「作品」として良いものには違いないのですが、受け取り手が「人形」として同じものを見るとときにはまた違った捉え方があるようです。

同じような表現でありながら区別される「人形」と「彫刻」の違いについては昔から様々な説明が為され、ここでは何も結論めいた事はいえませんが、人形が作品として以外の面を持っているというこの性質は、両者の違いを考える上でいくらかの助けになりそうです。

このあいだ友人の初めての個展が終わり、電話でその感想等を尋ねた折に、その人が予想していなかったものの方が好評でそのうちの幾つかが新しい持ち主に引き取られて行ったということに不思議そうに話していました。そういう事は自分でも経験があるので、人の好みは様々だと一旦は落ち着いたのですが、連れて行かれた人形達についてよく思い出してみると、それらは他の作品に比べどれもメッセージ性の弱い、所謂お人

形コレクターとして知られる故西沢笛胤氏の著作「日本の人形」(昭和29年 川出書房刊山邊知行氏共著)に古老からの次のような聞き書きがあります。「(江戸初期以来二百三十年余)この永い間に作られた数々の名品も明治維新の大変に際

してまことに悲しむべき運命に到着したのである。(中略)人形どころではなかった。萬金を投じて名工に制作させた数々の品も売り払うよりは、ほかに方法もないし、その上人形など直接役に立たないものに對する世間の待遇は実に冷酷で二束三文というよりほかに言葉のない憐れな状態を見せるといって有様であった。(中略)江戸市民の東北地方に逃れ行く、その道筋には幾多の名作人形が打ち捨てられて、見る人すらなかった」

この文の中にはまた大正12年の関東大震災や、第2次大戦の空襲による人形の散逸にも触れた箇所があります。非常に惜しくも残念な歴史ですが、ここで強く感じるのは、人間という存在を失ったときの人形が辿らなくてはならない薄幸な宿命です。

人形を人形たらしめているのは実は人間であるという事はあたりまえのようですがとても重要なポイントです。人間の介入を必要とし、またそれを受け入れる余白を残していること、これが人形たり得る要件の一つで

はないかと私には思われます。

人間に顧みられなくなった人形の例を挙げましたが、91年に開催されたフランスのアーティスト、ベルナル・フォコンの写真展では全く逆の感動を受けました。彼はデパートの倉庫やゴミ置き場に捨てられた86体のマネキン人形を集め、それをモデルにして9年間の間自身でコレクションしてきました。ただディスプレイの目的のためだけに作られ、その目的を終え捨てられていた間それらのマネキンはただの物でしたが、彼との出会いによって今度は人形として生き始めました。映像や写真に表れたその人形に対する深い接し方が今でも強く印象に残っています。

今年もまた人形供養が各地で行われているようですが、以前ある神社の供養祭に赴いたときにとても悲しく、また強い憤りを感じました。「お人形さんありがと」と銘を打つても、私には何かとても優善的で身勝手なもののように映りました。文化の逸失など大仰なことではないにしろ、人間が人形を捨て

る事を美化する社会が豊かであるとは私には到底思えません。

話が横道に逸れましたが、ベルナル・フォコンのマネキン人形達は本人の希望で今は京都のマネキン会社に保存されています。普段は人目に 触れることもあまりないのでしようが、機会があつたら、彼らに会って、そのときだけでも息を吹き返してあげて下さい。人間と何かしらの関係を持っている間だけが、彼らが「人形」でいられる時なのですから。

【福島 弘太郎／人形作家】

6ページの写真

イジイ・バルタ監督作品

「見捨てられたクラブ」は

「闇と光のラビリンス」に

収録されています。

*ビデオテープ問合せ先

ダグレオ出版

TEL 03-3357-8046

「人」と「形」 のあいだで 渡辺 純子さん



◇フランスのアーティスト、ビリーボーイの「ミドヴァニイ」ドールをはじめ見たとき、昔、バービー人形で遊んだ私は、郷愁を感じるとともに、より洗練された大人のための究極のファッション・ドールを見たような気がした。妥協のない素材選び、ファッション史の探究に裏打ちされた奥深いテーマ、そしてポップな遊び心が、この小さな人形の中に見事に調和している。バービー人形をはじめとする戦後のファッション人形の研究者である渡辺純子さんは、現在、ビリーボーイのファッション・ドールのプロデューサーとして活躍中。彼の仕事が自分の自己表現に通じるという、渡辺さんに、お話を伺った。

【プロフィール】

1950年 東京生まれ。
アンティーク人形を扱う会社を経て、渡仏。
アンティーク人形の鑑定を学ぶうち、ビリー・ボーイと出会う。帰国してからは、バービー・コレクターズ・クラブ・ジャパンを設立。人形美術研究のかたわら、ビリー・ボーイの人形をプロモートするため、エス・ダブリュー・ジャパンを設立。この9月に京都で行われたビリー・ボーイ人形展を企画、好評を博す。

—現在のお仕事について、お話しただけですか。
—今は、(ビリーボーイの)プロデューサーとしての仕事を中心ですが、本来なら、私も人形を作りたいのですが、できないので、自分の表現をビリーボーイに投影するのです。もちろん、彼には、そういう意識はありません。彼の知らないうちに、こちらからインスピレーションを与えていくのです。
—それは、プロデューサーとしての腕の見せ所ですね。
—ええ。私にとっては、彼はひとつの素材なんですけど、それは世界一エキサイティングで、それを越えるものはないと思っています。そして、彼の表現を通し私も自己表現を目論んでいます。
—彼の人形はどのように作られるのですか？
—「彼の人形は、アトリエワークによって作られています。もちろん、デザインや粘土により原形は、百パーセント、ビリーボーイ自身の手によります。素材は、レジンからポーセレンなど。一シリーズを何体か限定生産しますが、その道においてはフランスで国宝級といつてよいような優れた職人を含むスタッフ達が、すべて手作業で仕上げていきます。付属品やヘア・スタイルなどもフランスで著名なアーティストの協力を得ています。(ここで紹介し切れないのが残念!)」

—現在、彼はどのようなことをしているのですか？
—「今日、写真が届いたのですが、彼は今、ドルハウスを作っています。彼の中には十八・十九世紀の良ものが土壌となっていて、素材へのこだわりもあります。特別な意味のある生地を使ったりして、私も勉強になることが多いのですが、それだからこそ、彼は、本物だし、本当のアバンギャルドなのです。そして、それを一般の人に理解してもらうのも、私の仕事です。彼の作品には、メッセージとインテリジェンスが一杯詰まっているので、それを知らせていかないと、真価が分かってもらえないのです」
—それは、今まで渡辺さんがされてきたことの集大成といってもよいほど、渡辺さんでなくてはできないお仕事だと思えます。ですが、はじめからファッション・ドールを専門にしようと思っていたのですか？
—「いえ、日本で、アンティーク・ドールの会社で働いた後、一九八四年から八五年にかけて、フランスで、アンティーク人形の収集・鑑定家であるメーメル氏のもとで仕事や勉強をしていました。彼の出しているポリシネールという雑誌の取材で、ビリーボーイに初めて会ったのです。当時のヨーロッパは、戦後のファッションドールを見直そうというムーブメントがありました。」

バービー人形の研究者でもあるビリーボーイのコレクションの展覧会などを見ながら、私もコレクターズ・アイテムとしてのバービー人形の価値を再認識したのです。当時は、そういう認識は、日本ではゼロでした。ヨーロッパのあちこちで、バービーのクラブが誕生し、コレクターの集まりに参加しました。そして、バービーもアンティーク人形同様、歴史に残る人形だ、と戦後のファッションドールに関する認識を新たにしました。日本には、アンティーク人形の専門家は何かいたのですが、バービーなどのファッションドールの専門家はいなかったのです。やる意義を感じ、二十世紀のファッションと人形をテーマに始めたのです」
—ファッションへのこだわりは？
—「人間は美的生活を旨とするべき、が私の信条です。ヨーロッパで十九世紀にあったエッセティック・ムーブメント(審美運動)を二十世紀にむけて提唱したいと思っています」
—日本の人形作家や、DJへのメッセージはございますか？
—「日本の方の作品には、メッセージや、パワーをもう少し強く感じたいですね。DJは、みんなが待ち望んでいたものだと思います。全面的に支持しますので、どんどん良い形で発展することを祈っています」
—どうもありがとうございます。
(取材・文 小川千恵子)



写真

(上) アンディ・ウォーホルがビリーボーイのために描いたバービーの絵と渡辺さん
(下) ビリーボーイのミドヴァニイ・ドールの代表作「スキャバレリのオマージュ」
25cm レジン 人毛ウィグ

アメリカのドール・シーンに詳しいジャーナリスト、ゲイル・エニッド・ジマーが、DFJのために毎回アメリカの情報をお知らせします。

ゲイルからの手紙

第1回 NIADAと アーティスト・ドールの進展

アーティスト・ドールの歴史は、全米芸術人形作家協会(NIADA)に深く関わっているが、NIADAを語るには、まず、ヘレン・バラードについて述べなければならぬだろう。一九五〇年、メアリ・ルイスによって全米初のドール・コレクターの組織UFD Cができた。木彫人形の作家であったヘレン・バラードはUFD Cの活発な会員だった。ヘレンは、人形をアートと考えていたが、UFD Cの大会と同じ考えを持った他の作家とめぐり合い、UFD Cの会報

夜明け



で「アーティスト」について記事を書き、その後、ドール・アートに理解を示す雑誌編集者に知遇を得、精力的にアーティストの仕事を紹介していった。

一九六二年、オリジナル・ドールの初めての展示に成功し、翌年五月、テネシーにあるヘレンの家に四人のアーティストが集まり、内規をきめ、十一人の作家が、プロのドールメーカーとして、このアメリカ初の組織に承認された。UFD CからNIADAへと、輪は国内だけでなく海外へも広がっていった。

アーティスト・ドール対
ビープル・フィギュア

玩具でない人形を何と呼ぶか? このタイプの人形の用語は、変わり続けている。一方、「ドール・アーティスト」という名称は、デザインと制作をすべて自分で行う人形の作り手たちに、すぐ受け入れられた。ヘレンも、「アーティストの人形」とか「アーティスト・ドール」という言葉を使っていたが、一九六五年、アメリカ工芸作家協会

が開催したNYの工芸美術館での肖像的な立体作品を集めた展覧会で、たくさんの人形が展示されてから、「人の肖像(フィギュア)」とよぶのを好むようになった。近年、何人かのNIADAのアーティストは、作品を「複合素材による肖像的塑像」とか「総合芸術における三次元的肖像」などと呼んでいる。

人は言うだろう、「名前が何だっというの?」。だが、名称の考察は繰り返し、行われるだろう。

一九七八年、UFD Cは人形用語集を発行した。NIADAが登場してから長い時がたっているのに、アーティスト・ドールについてはそこには何の関心も示されていなかった。

ドール・アートの振興

ドール・アートの創作意欲の種をまいていこうというNIADAの当初の目的は達成された。だが、助成金の制度は失敗に終わった。一九六八年「ドールニュース」誌に広告で募集をかけたが、応募はなかった。本当に優れた作家のと

ころで学ぶチャンスが、制限されていたからだ。だが、どこで人形作りを習えるかという問い合わせがあった。その答として、マジ・ヘッド・ケインと夫のキースは、磁器での原型の作り方や型の作り方のコースを開設し、わずかな料金で8週間もの間、場所を開放したのである。

ドール・アズ・アート

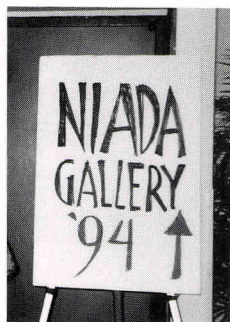
ヘレン・バラードの「人形を芸術として認めてほしい」という夢は実現しただろうか? 現在、多くのドール・アーティストがドール・デザインも兼ねるようになり、水は濁ってしまった。だが、一九八三年にビジネス関係者をNIADAに招待したのは、ヘレン自身なのだ。彼女の、未来を映す水晶玉がこういったのだろう、「毎年素晴らしい人形をほんの少しずつ作っているだけじゃ、食べていけない」と。こうしてNIADAはアーティストだけのものではなくったのである。

だが、ヘレンがこの時どうやって、将来どれだけ

の人形作家がマーケットに参入しているかなどと予測できたろう。アーティスト・ドールに関心が高まることなど、オーストラリアまでの距離くらい、程遠かったし、NIADAが設立された頃は、現在のように数多くアーティスト・ドールの記事を扱う専門誌など存在しなかったのだから。

玩具研究家であるマックス・フォン・ボームは、彼の古典的な「ドールズ・アンド・パペット」で、挑戦状をたたきつけた。いわく、「人形は、芸術にならない」と。ヘレン・バラードはその挑戦状をつかみ取った。そしてそれを、NIADAの仲間らに託し、二十一世紀への課題としたのだ。

(この記事は、G・ジマーの許可を得て、ドール・ワールド誌に発表された記事の一部を元に作成されました)



グローバル・ドール・ソサエティ コンベンション・レポート



会場となった市庁舎



無審査作家の一人、福島弘太郎さんの「てんと虫」

今年で12回を迎えるグローバル・ドール・ソサエティの
アニュアル・コンベンション。今年は、ドイツのローテンブル
グで10月6日から9日迄開催された。参加者は、ドイツ、イ
ギリス、スイスを中心に、二百名ほど。開催地となったローテ
ンブルグは、ロマンチック街道にあり、中世のたたずまいをそ
のまま残した、小さな美しい町である。会場には、市庁舎など
の荘厳な建物が使われ、オープニング・パーティにはローテン
ブルグ市長も参加した。私は、今回初めての参加だったが、
ドール・アートを通じ、すぐに多くの友人を得ることができ
た。

(取材・文 小川 千恵子)



レッド・セクション「赤ちゃん人形の部」



ローテンブルグ人形博物館 この館長もGDS会員で、ローテンブルグ開催の
ために尽力、ワークショップは別館の素敵なバロック・ルームで行われた



レッド・セクション責任者 ジェイン・デイヴィス



(左から) 朝倉和子さん、
キャロル・スタントンGDS会長、黒田由美子さん



展示会場

グローバル・ドール・ソサエティは、ドイツの故マシアス・バンケ、イギリスのキャロル・アン・スタントンとその娘デビーの三人によって、「人形を通じて国際的なフレンドシップ」を実現するために設立され、毎年十月にヨーロッパの都市で、コンベンションが開催されてきている。

【コンベンション】
コンベンションでは、ワークショップやパーティが開かれるが、参加者の関心の中心は、コンベンションだ。出品するためのセクションは四つに色分けされていて、それぞれにカテゴリがいくつか分かれている。たとえば、イエロー・セクションはアンティーク人形で、カテゴリーは、フランス人形、ドイツ人形など八つに分かれる。グリーン・セクションは、現代作家のレプリカで六カテゴリー、レッド・セクションは、まったくのオリジナル・ドールで七カテゴリー、そして今年新設されたブルー・セクションは、量産品のコマーシャル・ドールのデザイナーのためのセクションで三カテゴリー。

出品数は、それぞれのカテゴリで、多いところでは、十体近い作品が、少ないカテゴリでは、二、三体、または皆無というところもある。

各セクションの各カテゴリに賞が設けられており、受賞者の数は多い。過去のレッド・セクションの受賞者には、グンツェル、ヒムシュダット、エラ・ハスなどがおり日本人では、松原登代子さん、リスフェルド純子さんがいる。

今年日本から出品した中では神戸の黒田由美子さんが、レッド・セクションの「赤ちゃん人形」カテゴリで金賞、同じくレッドの「タブロー（二体以上で状況設定がされている）」カテゴリで銀賞と人気投票で一位、大阪の原弘美さんが、レッドの「ミニチュア」カテゴリで金賞を受賞した。また、黒田さんは、特別賞である「マシアシ・バンケ賞」も受賞した。

【無審査作家】

コンベンションの展示と並び、受賞を重ねた作家などによる審査の対象外の展示がある。日本人では、先の松原さんとリスフェルドさんがそうだが、

GDSは今回、日本より特別に所由紀子さん、福島弘太郎さん、藤井路以さん、岩切克樹さん、岩切映幹子さんを無審査作家として指名した。コンベンションには、所さん本人、筆者は他の四名の代理で参加した。展示は欧米の作家の注目を集め、今回のDFJの表紙にも登場した岩切映幹子さんの作品「蝶の精」は、現地の新聞でも紹介された。

【ワークショップ】

コンベンションでは、いくつかの有料・無料のセミナーも開かれる。今年は、シーリー社のコンサルタントである作家のブッカー氏による「立体的に見せる顔の彩色技術」、フランスのアンティーク・ドール研究家のテメール氏の「芸術家・ジュモ」などの講義から、チャールソンの「ワックス・ドールの植毛技術」、日本の朝倉和子さんによる「押し絵」の実技など、十一のワークショップが開催された。

【エンターテイメント】

今年は特別だったそうだが、会期中パーティーが四晩続けて行われた。ビアフェストなど現地

ならではの趣向も凝らしているが、ユニークなのは、手持ちの人形とコーディネートした衣装を審査するコンテスト。白雪姫やアリスに変装した参加者を見て、一同楽しんだ。

【来年・・・】

来年のGDSコンベンションの開催地は、イギリスのスタッフォード・エイボンというシェイクスピアゆかりの地で行われる。

会長のキャロルは日本に大変興味を持っており、多くの日本人がGDSに入会してほしいと訴える。私がこのコンベンションを見た限りでは、グローバルといっても、ヨーロッパ中心。日本のアーティスト・ドールの良さが理解されるには、とにかく機会がある度に「見せ続けて」いくしかないだろう。これは皮肉なこと、国内でも同じ状況なのであるが。

【日本でのGDS連絡先】

大阪府吹田市津雲台
2-1 C3-101
06-834-2007
朝倉和子

GDS・アーティスト・ドール（レッド）セクション責任者

ジェイン・デイヴィスに聞く

（イギリス）

——ヨーロッパでのアーティスト・ドールの状況は？

「アメリカは大きなマーケットがあるけど、イギリスはないに等しいです。ドイツなどではエッシーやグンツェルなどの子供の大きな人形が喜ばれてるわけ。アメリカでは大人向けの人形が喜ばれるけど、ヨーロッパはそういうものは難しい。フランクフルトで年一回開かれるドール・アートという展覧会では、すべての分野がそろって、それも子供の大きな人形が中心。GDSの他にも、ヨーロッパにはヨーロッパ・アーティスト・グループとBDAというのがあるが、あまり活発でないし、皆他の仕事をしながら何とかやっているの」

——あなたの作るような小さな人形はどうですか？

「ミニチュアは作る人が多い。私はドールハウスの人形も作ります」

——あなたのゴールは？

「私は、自分のスタイルを確立したいです。それと同時に、こーやってGDSの仕事に協力することで、ヨーロッパで人形をアートとして位置付けていくのを目標にしています」

——日本の状況は知っていますか？

「ええ。素晴らしいアーティストがいるのは知っていたけど、どうしてコンタクトして良いか分からなかった。今回所さんが来てくれたり、他のアーティストの作品が見られたのは本当に嬉しいですね」

——でも、理解されるには、時間がかかるでしょうね。

「ええ。でも、日本のアーティストはそれを理解してもらうために繰り返し見せ続けるべきです。西欧のコピーや、こちらの文化に迎合する人形は感心しません。自分のスタイルを貫き通すべきです。大事なことは、ハートに訴えかけてくるものがあるかということです」

九月三十日、「ドール・フォーラム・ジャパン（以下DFJ）創刊を祝う集い」が開催された。第一部の会場は目黒文化会館。参加者は、約三十名で、主催者、群馬県で創作人形を扱うお店を開いたばかりの司会の金居孝子さんを除き、後はすべて人形を作る人たちだった。

はじめに、主催者であるDFJ事務局長の小川千恵子がいさつし、DFJの発足の主旨、事務局の位置付け、今後の展望を次のように説明した。



DFJ 創刊の集い

1994年9月30日 目黒文化会館

この後引き続き、七月のアトラントでのNIADAの様子を、小川がビデオを見ながら説明した。休憩時間には、参考作品や素材、書籍、NIADAの写真などの展示品を見学した。

次は、参加者一人一人の自己紹介。それぞれの、短いお話の中にも、いかに皆が、このような組織を待ち望んでいたかということを知り、DFJに対する熱い期待を、あらためて実感した。

全員の紹介の後には、参考出品の作品の紹介。「人形つれづれ」の

・DFJは、アーティスト・ドールの情報の活性化・後世代の育成を図るための非営利の組織であり、運営はDFJ事務局が行う。
・活動は情報交流誌「DFJ」の購読が主体。編集方針は優れた作品に焦点を当て、いかなる教室・会派にも属さない。
・DFJの運営は、会費で賄いきれない分をユーラシア・ドールズがサポートする。
・DFJはDFJを購読する人すべての組織であって、アーティストの組織ではない。だが、アーティストの活動は積極的に支援する。
・DFJはひとつの価値観にすぎない。ワン・アンド・オンリーではないことを理解して頂きたい。
・将来セミナーの開催を目指す。

福島弘太郎さん、杉山久江さん、太山レミさん、岡田好永さん、岩切克樹さんが、それぞれの作品について、小川がアメリカのアキラ・ブランドとウタ・ブラウザーの作品について説明した。

小さいけれど、全国では初めての試みではないかと思うのが、シェアリング・セッション。DFJに望むもの、日本のアーティスト・ドールが目指すものをテーマに話し合ってもらった。ここでも（アーティスト・ドールの抱える普遍的な課題である）アーティスト・ドールの位置付けについて、会場で意見が交わされた。

二部では、近くの地中海料理のレストランに場を移し、懇親会を行った。十五名ほどの人が、リラックスした歓談のときを楽しんだ。話題は、一部では語り切れなかった人形の話から、健康法の話までさまざま。参加者の中には、広島や甲府、茨城から来て下さった方もいた。それぞれ、今回のDFJの会合を期待しつつ、なかなかうちに、散会した。

今回の反省としては、まず、時間がなかったこと。交通事情により主催者の到着が遅れたこともあるが（ごめんなさい）、予定の時間でこれだけのことをするにはきついものがあつた。早くも、セミナーやクリティークを希望する声があり、検討の課題としたい。



質問に答える小川



展示に見入る参加者

年内には、国内ミニチュアリストの第一人者、磯貝吉紀氏の作品の見学会を予定しています。また、忘年会も予定しています。希望者は気軽に参加してください。人形について、DFJについて、または再び健康法について、にぎやかに語り明かす会にしたいと思っています。詳細は十九頁を御覧ください。



懇親会参加者（目黒「シー・ホ」にて）



司会の金居孝子さん



**サンタ・フェ
ドール・フェスティバル
コンペ・一般参加者募集中!**
1995年4月21日～23日

アメリカ・ニューメキシコ州の名リゾート地サンタ・フェでドール・アーティスト自身の企画によるドール・フェスティバルが開催されます。

呼びかけ人の代表はイギリスの人気ワックス・ドール作家のピーター・コウなど。日本からの作品も出品されます。ピーターからは特別にDFJ読者に対してメッセージが届いています。

「世界の注目を浴びる日本の人形作家は、今、その仕事を世界に見せるときです。世界との壁をなくし、友情を深めるためにも作品を世界に発表するべきです。私はサンタフェで日本の作品が展示されることを誇りに思います」

同フェスティバルは幼児虐待防止協会への賛助も目的ですので、子供向けのイベントも用意されています。また、GDSによるコンペティションもあります。

参加希望の方は、詳細をDFJ事務局までお問い合わせ下さい。
(写真・ピーター・コウ)

日本を代表する ドール・アーティストをご推薦下さい

DFJ事務局長の小川は、来年のNIADAとGDSで、日本のアーティストをスライドで紹介するプログラムをもちます。既に、与勇輝氏、大島和代さんの紹介が決まっていますが、その他の方については検討中です。全部で三十人近い方を紹介することになります。この方こそ、と思う方がいたら推薦理由をつけてお知らせ下さい。検討の対象とさせていただきます。

*ご推薦は、郵便で事務局まで

グンツェル写真集

16頁で紹介のグンツェルの「ドール・ファンタジーズ」ご希望の方は、ユーラシアドールズまで
(表裏表紙)



**CFMギャラリー
ドール・アズ・アート
(ニューヨーク)**
11月17日～12月31日

DFJ2号で紹介したソーホーにあるCFMギャラリーが、ドール・アートに焦点をあてた展示を長期間にわたって行います。

オーナーのズカーマン氏自身、アーティスト・ドールのコレクターで、2年前より人形を展示し始めました。彼の考えでは、ファインアートのギャラリーは、大人の鑑賞用の人形が展示されるのに理想的な環境だといえます。作家のイメージするファンタジーの世界を存分に満喫できるよう演出できるからです。出品する作家は左記のピーター・コウ+ポール・クレイ、コミカルな動物の人形のジョー・エレン・トリリング、美しい半獣人を作りあげるキャラベイなど6人。次回の「ゲイルからの手紙」は、このオープニング・パーティについて書かれる予定です。

(写真:リチャード・ブラウスの作品と)

112 Greene Street NY, NY ☎212-966-3864

アピール・ボックス 昔人形青山ギャラリーK1(京都)

昔人形青山の店内棚に高さ65、横40、奥行33cmの3個の展示用ボックスが並んでいます。これは、日頃の創作活動をアピールするのに個展とは違う形で、気軽に発表できる場をと店長の青山恵一さんのアイデアにより生まれたものです。

利用できる箱は各自1個、期間は3か月で、途中での入れ替え可能。使用料は無料だが、販売時のみ手数料として20%を店に支払います。搬入・搬出はお店が代行、返送を依頼すれば、三千元。

アピールするためのボックスなのでポストカードや写真集、感想ノートなどを置くことができます。1週間程度で終わる現在のギャラリー形式に比べ3か月という長期間のため平均化された観客の反応を見ることが出来ます。

好評の企画のため、予約はすでに来年10月まで埋まっているそうです。詳細は:昔人形青山ギャラリーK1
京都市北区北大路下ル小山東大野69
☎075-415-1477



**田畑恵美子と
美しき仲間たち(クレイ・ドール展)**
(桐生明治館・群馬)
11月1日～11月30日

重要文化財である明治時代の洋館、桐生明治館が、明治館にふさわしい新作を交えた田端恵美子さんの作品展示を行っています。

桐生市桐生町2-414-6 ☎0277-52-3445

「とおりゃんせ」 オープン 桐生(群馬)

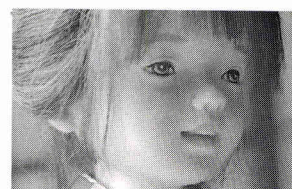
DFJ創刊を祝う集いで司会をされた金居孝子さんが、10月19日に創作人形やオルゴール、手作り家具を扱うお店をオープンしました。金居さんによると、「小さな空間だが、風のそよぎと空の移ろいと、人の情を感じることでできるところ」だそうです。多くの方に自分の表現する場として役立ててほしいと希望されています。

桐生市堤町3-8-2
☎+fax 0277-22-8777

急いで! 人形の着物 衣の会 作品展 (東京) アンティーク ギャラリー目黒 11月25・26・27日

会員の伊藤百合子さんが通う人形の着物の教室の展覧会。伊藤さんは、ここで着物を重ねるときの色合わせや、日本古来からの裂について学んでいます。
(衣の会主宰:小牧加津)

会場:東京都品川区上大崎2-24-18
ストークンション 目黒2F
〒141 ☎03-3493-1971



松浦加代子写真集

*広島松浦加代子さんの作品写真集
ご希望の方は1800円+送料 270円を下記へ
広島県三原市沼田西町松江187-30
〒729-04 ☎0848-86-5503 松浦加代子



大谷博子

「漂う」
縦35×横25×高25cm

福井県にて5年間越前焼を学んだ後、粘土による人形制作を始める。人形達展特選（1985）など、数々の人形展に入賞。今年、第20回国際現代美術家協会（ima）において都教育委員会受賞。日本創作人形協会会員。

近況報告

ユニークで良質な欧米の玩具や人形を扱うことで定評のあるグランパは、従来の抱き人形より個人的な愛らしさを持ったヨーロッパのアーティスト・ドールに早くから着目、紹介を続けている。グランパは俳優の津川雅彦氏のお店であることでも知られている。氏が直接ヨーロッパで買った人形は、日本では常に2〜3年たつてからじわじわと人気が出てくると、その選択眼の鋭さを、店長の松田さんも信頼きいている。現在、青山本店には氏の秘蔵コレクションであるシュミットの人形（写真）が並んでいる。そのほかにも、今までにグンツェル、ヒムシュタッドなどの日本での人気の火つけ役となった。

人形ファン待望の「お人形フェア」は、年一回開催、今回は、十二月二十六日から来年のひな祭りまで行う予定だ。西欧のアーティスト・ドールから、国内では、津川氏の認定したグランパの「人間国宝」である、革の本池秀夫氏、フランス人形の西崎富久子さん、創作人形では、小林美枝子さん、原仁子さん、長谷川裕子さんなどの作品が並ぶ。

グランパは、エンターテインメントビジネスのプロとして「夢を売るのであり、買ってもらうものだ」という。高価なオルゴールを



結婚記念に買うことを決めたカップルが結婚までの間、時々来店してはそのオルゴールの音に耳を傾ける。その横には「大切な約束があります」というカード。

人と人の出合いを大切にし、買いに来た人の思いにどれだけ応えられるか、また作者の心をどれだけ伝えられるかということに、グランパは心を尽くす。

だが、「商い」をする立場としての厳しい視点から、人形とは、第三者に認められてはじめて一人前になるのだといい、人形作家に対して、逆提案していくことも多い。グランパのように、心のこもった商いをしてくれるお店に育てられる作家は、幸せだと思う。

全国にこのようなお店が、少しずつ増えていってほしいものだ。

（取材・文 小川 千恵子）
グランパ青山本店
（午前十一時〜午後七時）
東京都港区南青山1-1-1
新青山ビルディング2F
☎03-3475-1138

だが、「商い」をする立場としての厳しい視点から、人形とは、第三者に認められてはじめて一人前になるのだといい、人形作家に対して、逆提案していくことも多い。グランパのように、心のこもった商いをしてくれるお店に育てられる作家は、幸せだと思う。

全国にこのようなお店が、少しずつ増えていってほしいものだ。

グランパ青山本店

SCHEDULE スケジュール

	住所・開館時間	11月／	12月／	1月／	2月
横浜人形の家 （企画展示室）	〒231 横浜市中区山下町18 ☎045-671-9361 10:00-17:00 月曜日	10/22-11/20 アチャコ 手作り 人形展		1/3 - 1/25 新年特別展示	2/4-3/12 館蔵 雛人形展
新宿 せ・ら〜る （人形展のみの掲載です）	〒160 新宿区歌舞伎町1-30-1 新宿PEPE 6F ☎03-3205-2673 10:30-20:00 年中無休	-30 安岡 郁夫	12/2-10 堀佳子 個展	12/20-12/29 吉田良一 個展	2/22- 福島 弘太郎

小牧多賀子個展

1995年2月19日
～ 2月26日
目白千種画廊
豊島区目白3-18-6
11:00-18:00 ☎03-3954-0053

FANTAZOO

菱沼陽土女作品展
開催中 年内12月25日まで

人形ではないが、日本画と紙粘土による半立体作品。立体イラストとも言えるユーモアあふれる世界

むさしの郊外美術館
ファースト・アートフォーラム
181 東京都三鷹市中原3-9-2
10:00-17:00 ☎0422-41-8721



塚野 裕子個展 'Romantic for ever' （ロマンティックよ 永遠に） 12月16日～18日

ギャラリーてんぐスクエア
広島市中区大手町1-5-12
10:00-17:00 ☎082-248-1128



生き人形展 堀 佳子の世界 12月2日-10日 せ・らる（上記）

岡山県出身の堀佳子は、吉田良一、福島弘太郎の両氏に師事。ロックバンド「黒夢」写真集に採用されるなど活躍中。



三輪 光輝子 土と炎から生まれた 創作ビスクドール展 12月7日～13日

松屋銀座7Fアートギャラリー
東京都中央区銀座3-6-1
10:00-19:30 ☎03-3567-1211

Hildegard GÜNZEL

ヒルデガルド
グンツェル
(ドイツ)

今年のグローバル・ドール・ソサエティ(GDS)に来ていた人が言った。「今年は、グンツェルが来ているのよ。これはすごいことなのよ」。ヨーロッパのドールメーカーにとって、憧れの的であるヒルデガルド・グンツェル。

ポーセレンからソフトビニールにいたるまでの素材を手がけ、愛らしい少女から、妖艶な女性まで、その美しく生命感にあふれた作品は、欧米ではホントなコレクターズ・アイテムとなっている。DFJに情報を提供したい、とドイツの雑誌社と、GDSがそれぞれに最初に推してきたのも、彼女だった。

三百平方メートルもある二階建てのアトリエで、五人のスタッフと、ひと月にビスクの人形だけで二五体から三十体は制作し、年に四十体以上もの原型のデザインをこなす。事業的成

功も収め、グンツェルは文字通りの後続のアーティストとしてスター的存在だ。

彼女は最近「ドール・ファンタジーズ」という作品写真集を出版し、そこで回顧している。

素材の入手もままならず、何も知らずに「完璧な美」への情熱だけで制作を始めた二十年前、今は亡きマシアス・バンケとの出会い、GDSでの入賞、ビジネスの成功、アメリカへの進出……。現在に至るまでを、エッセイやヒムシュタッドなどのライバルの話も折り込み、ドール・アートの草分けとして経験したことを思いのままに綴っている。

現在、自らをドールデザイナー、もしくはモデルと名の彼女にとって、創作の根源として一番大切にしているのは、一九七十年代にみた「眠れる美」の夢の世界だそう。



from overseas

16

Tatiana BAEVA

ターニャ
バエバ
(ロシア)

ターニャに会って、その作品の写真を見せられたときは、正直言ってショックだった。既成概念を越えたシニールなキルティングの作品から、綿そのものに糊でコーティングをかけた人形に仕立てあげたプリミティブで力強い作品、そしてアメリカのスーパースカルビーで作ったロシアの素朴な人々の人形……。この幅広いみずみずしい作品すべてが彼女ひとりから出てくるのだということを受け入れるのに、少し時間がかかった。

現在三七才のターニャ・バエバは、モスクワ芸術大学を卒業後、テレビで子供に工作を教える番組を担当したり、人形の作り方の本を出版したり活発に活動していた。その後、キルト作品の展示のためにアメリカを訪れてから、西欧諸国に彼女を援助する多くの友人を得、交流が活発になり、その仕事が評価さ

れる機会が多くなった。

ターニャの夢と責任感、制作以外にさらに多くの仕事を自身に課す。価値のないものとして廃棄されてきたロシアの古い人形をできるだけ回収する、自国での人形作家の協力関係を築く、新しい可能性を求めてRADA(ロシア・アメリカ人形作家協会)をアメリカの作家と設立する……。

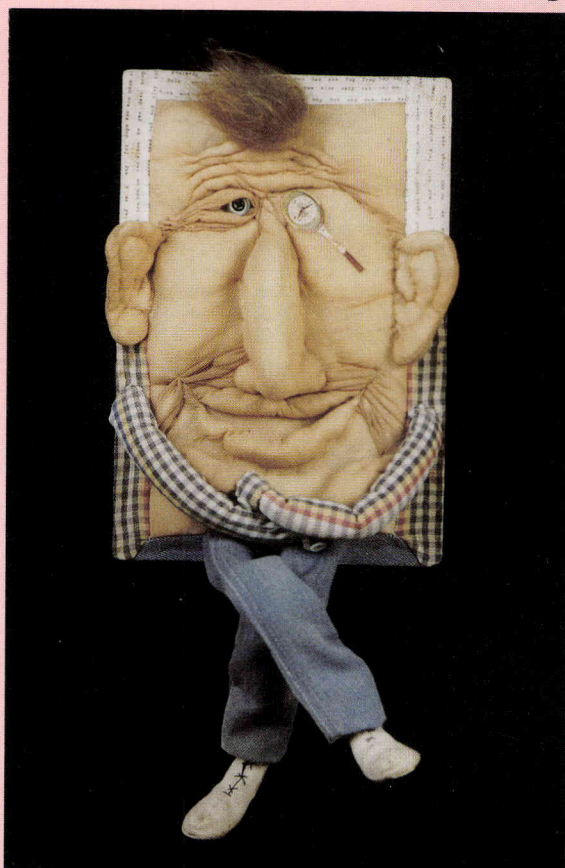
材料の入手もおぼつかず、つい何年か前までは、思想統制が行われていた国で、これだけの自由な感性が損なわれずいたこと、ましてや「ドール・アート」って、まだ社会的認識がゼロに等しいから大変!と「異国同音」にお互いの国から同じ悩みを分かち合うことができたのは、平和と、ドール・アートへの情熱がもたらしてくれた奇跡といっても過言ではないだろう。



Hildegard GÜNZEL



Tatiana BAEVA



「友人の肖像」
(35cm X 27 cm)



「伝統的なロシアの生活」シリーズ
(素材：スーパースカルビー)

佐々木 文子

関節三ツ折れ
高さ 四七cm
石塑・木質粘土
胡粉仕上げ

尾張旭市旭ヶ丘町旭ヶ丘

五六八—三三

〔連絡先〕
名古屋に水澄恵美子人形教室が始まって四年目。以前より、水澄先生の作品のレパートリーの広さ、一体一体に人形格があるかのような存在にひかれ、師事。
人形コレクションから始まった人形狂い。創作の楽しさ苦しさ、少し分かったような気がします。明治、大正、昭和のそれぞれの人形達、世界の国々から来た人形達にかこまれ、自身の作品がそこで自己主張できる存在になればいいなと思います。



教室・学校名	住所／TEL	開講日時・講師陣	授業料
竹取物語人形学校	〒171 東京都豊島区目白 3-17-27 ☎ 03-3954-3395	月・創作市松人形 (宮崎優人) 10:00-13:00 ・月3回 火・創作抱き人形 (竹村和子) 10:00-12:30、14:00-16:30 ・月4回 水・着物縫い方 (桑原静江) 10:30-13:00、14:00-16:30 ・月2回 木・創作抱き人形 (小林三千子) 10:30-13:00、14:00-16:30 ・月4回	入会金 ¥20000 月謝 月¥10750 火 ¥13000 水 ¥8500 木 ¥13000 *入学随時受付
ビッグマリオン 人形教室	〒158 東京都世田谷区 奥沢6-28-14 林コーポ201 ☎ 03-3704-3730	月・福島弘太郎 A講座 10:30-13:00、14:00-16:30 B講座 18:00-20:30 火・渡辺素子 A講座 10:30-13:00、14:00-16:30 木・吉田良一 A講座 10:30-13:00、14:00-16:30 B講座 18:00-20:30 金・吉田良一 A講座 10:30-13:00、14:00-16:30 土・吉田良一 13:00-15:30、16:30-19:00 日・吉田良一 (原則として第1・3日曜日) 10:30-16:30	月4回 1・8月は月3回 入会金 ¥20000 設備費・毎月1000 月謝 ¥12000
A R T モマージュ 所由紀子人形教室	〒206 東京都多摩市貝取 2-5-3-506 ☎ 0423-76-1294	所 由紀子 (月3回) 第1・2・3金曜日 10:00-12:30	月謝 ¥9000
岩切人形工房	〒186 東京都国立市東 1-3-15国立ダイナミック106 ☎ 0425-71-3221	岩切 克樹 水曜日 18:30 - 21:30 金曜日 13:00 - 16:00 土曜日 13:00 - 16:00、18:30 - 21:30	入会金 ¥15000 月謝 ¥13000
藤井 路以教室	〒173 東京都板橋区 中丸町39-2-104 ☎ 03-3530-6598	藤井 路以 火曜日 19:30 - 21:30 金曜日 16:00 - 18:00 日曜日 (月1回・第4日曜日のみ) 12:00 - 18:00	入会金 ¥20000 月謝 ¥12000 雑費 (月) ¥500 *火・日は入会可能
ドール・サロン麻生	〒194 東京都町田市 玉川学園2-11-7 ☎ 0427-20-1423	麻生 やや *ビスク中心。創作、球体関節、レプリカ等 日時については、直接お問い合わせ下さい。	入会金 1万円 月1回クラス(2h)3千 月2回クラス(4h)6千
ミワ・ドール・アカデミー	〒157 東京都世田谷区 祖師谷3-12-1 サザール 成城103 *本部 (11:00-18:30) 世田谷区砦8-26-1 ☎ 03-3415-3800	三輪 輝子 ・土曜 午前クラス10:30-12:30 (月謝16000) ・土曜 午前クラス13:30-16:30 (月謝20000) ・第1、3土曜クラス 10:30-16:30 (月謝17000) ・第2、4土曜クラス 10:30-16:30 (月謝17000) *10回チケット制 (12回のうち2回休み) 38000円 午前・午後は選択可	入会金 15000円 設備費 1800円 月謝は左表参照
三越文化センター 布と綿で遊ぶ 創作布人形	〒104 東京都中央区 日本橋室町1-4-1 ☎ 03-3274-8595	松原 登代子・佐々木 明子 ・毎月第2水曜日 13:00-17:00 6か月6回	入会金 6000円 (3年間有効) 受講料 27000円
創作粘土の会 ラ・バンボラ	本部アトリエ 〒177 東京都練馬区 石神井台1-12-11 ☎・FAX 03-3997-8687	高橋 節子 教室日 月・木・金 (月2回 10:00~15:00) クラス:初級、中級、上級、研究科、講師科 *本部講師派遣教室 ・読売文化センター・北先住、浦和、横浜、横須賀、藤沢、金町、荻窪 (人形・アートレリーフ) ・西武カルチャースクール池袋 その他全国各地に教室があります。お問い合わせ下さい。	入会金 15000円 月謝 12000円
アトリエ・プチ 人形教室	〒181 武蔵野市 吉祥寺本町1-18-3-401 ☎ 0422-22-0986	池田 雅世 *基礎科はチケット制・4枚・2ヶ月有効 火 10:00 - 12:30 13:00 - 16:00 木 10:00 - 12:30 13:00 - 16:00 土 10:00 - 12:30 13:00 - 16:00 人形の着物縫い方科	入会金 ¥10000 基礎科 ¥8000 自由科 ¥10000 市松科 ¥10000 人形の着物縫い方科 ¥6000

前号の石渡紀子さんのお手紙に近況報告(十四頁)の大谷博子さんからメッセージが届いています。

私の作品に共感して下さる方がいらっ

しゃることはとてもうれしいし、励みになります。ともすれば自分だけの世界に入り込み自己満足しがちです。私の人形を作りたいというエネルギーのもとには言葉には出さない自分の心のうちの自問自答じゃないかなと思うのです。日常生活の雑多に追われ、言葉で語れないものを人形という形を通して表現している気がします。

ここしばらく東京の方へ出品するこ

とをやめていました。地元で個展をしたり教室活動で過ごしてきましたが、今年、知人の勧めもあって、芸術劇場ギャラリー(art gallery)で開かれたima展に写真の(十四頁)作品を出品しました。国際芸術家協会imaは油絵、日本画、彫刻、工芸その他の分野があり、人形の分野を工芸として認めて高めていくという開かれた部分があり、とてもうれしいことと思っています。今後心と技術をみがき、少しでも共感して頂ける作品を作っていきたいと思えます。

【富山県 大谷博子】

■ D F J セミナー

— 磯貝ミニチュアハウス

ギャラリー見学会—

十二月十一日(日) 一時半〜三時半
要電話予約・先着七名のみ

会費不要

DFJ事務局

*東京都文京区のマンションにある磯貝吉紀氏のブライベート・ミュージアムを訪れます。磯貝氏は、国内屈指のミニチュアリスト。氏ご自身の説明により、そのミクロコスモスの世界をご鑑賞下さい。

■ D F J 亡心年々ム

十二月十一日(日) 五時

新宿紀伊国屋前集合・DFJ誌が目印
どなたでもOK。会費当日実費清算
(できれば事前に☎を! 事務局)

■ D F J

補助スタッフ募集

取材・編集補助のできるボランティア・スタッフを若干名募集します。プロの人形作家以外の方で、文章を書くのが好きで人形を偏らずに見ていける方。デザインできれば尚可。規定稿料・取材実費をお支払い致します。 DFJ事務局

■ 個展・作口即展の

予定のあるムロ貝

DMを、DFJ発送時に同封サ
ビス致します。二百枚。
次号発送は来年二月下旬です。
DMは二月十五日必着でお送り下
さい。

編集後記

ドル・フォーラム・ジャパン事務局長 小川千恵子

☆ 海外に行くと、「えっ、これが?」と思うような妙な日本人形に出会う。外国人が、日本的なものを取り入れようと、フィーリングで(彼らなりに)も研究しているの(だろう)つくる日本人形が、多いのだ。そしてそれが、結構評価されたりする。その話を、アメリカのドル・ジャーナリスト、ゲイル・エニッド・ジマーに話したとき、彼女は少し考えてからこういった。「それは、アメリカのレストランにある日本料理のようなものね」。

この言葉はその後、私にとって、人形文化の違いを考える上で、重要なヒントとなっている。

逆に、現代の日本のアーティスト・ドルには、西洋的な人形が多いが、外国に行ってすんなり彼らの世界に受け入れられるものは、少ないのではないだろうか。GDSのジェイン・デイヴィスはいった。「日本人は、西洋人の真似なんかすることないのに、どうして髪や、目を西洋人のようにするのかしら」。彼女は、今回の表紙になった岩切映幹子さんの「蝶の精」を大変高く評価したが、その上でこういった。「これは、日本人の人形だから、いいの」。彼女は、日本の伝統工芸人形と、その後の日本のアーティスト・ドルの違いを知っている数少ない外国人のひとりだ。そして、「ゲイルからの手紙」の連載を快諾してくれたゲイルも。彼女たちは、日本のアーティストや作り手たちと一緒に、日本人形が本当に国際的になることを考えてくれる素晴らしいDFJの友人である。

☆ 巻頭を飾った岩切映幹子さんは、中性的な魅力のある人だ。印象がクールなので、近づき難くも感じるが、話して見るととてもざっくばらんで楽しい人だ。インタビューの後は、主婦として、いかに手抜きをしているか互いに競いあって盛り上がってしまった。

☆ DFJはアウトローでいたい。実際、世界に例を見ない(?)人形誌なのだ。西欧の価値観をそのままあてはめることはできない。権威にこだわらず、この小さな本でしかできない冒険をし続けたいと思っている。

投稿募集

- 【LETTERS】感想、ご意見、ご希望など
- 【CS(新人紹介)】自薦、他薦を問いません。まず、写真をお送り下さい。
- 【REVIEW】個展、展覧会の感想。400字程度
- *以上の採用分には、リーセ葉書セットを進呈。
- 【INFORMATION】ニュースがあったら何でも
- 【近況報告】プロの作家の方の最新作の発表の場です。応募はCSに準じます。(採用分には規定稿料をお支払いします)
- 【教室、個展他の案内】随時受け付けます。
- *応募は、項目を明記の上、DFJ事務局まで

D F J 購読方法

ドル・フォーラム・ジャパン(DFJ)は書店では販売されていません。購読は、会員購読制です。DFJは年に4回5月、8月、11月、2月に発行されます。
お申込は、年会費5千円を下記の方法でご送金下さい。
*郵便振替 00120-8-717693
「ユーラシア・ドルズ」
(通信欄に、「DFJ」と明記する)
*現金書留 または 郵便小為替

バックナンバー

1号(表紙:大島和代) 2号(表紙:山口景子)
会員の方は1部1000円です。それ以外の方:1400円

ドル・フォーラム・ジャパン第3号

1994年11月23日発行

編集発行:ドル・フォーラム・ジャパン事務局

〒189 東京都東村山市久米川町3-27-57

☎0423-95-7547 FAX 0423-95-7975

編集責任者:小川千恵子

印刷:株式会社 日出島

ドル・フォーラム・ジャパンはユーラシア・ドルズのサブサッチャリ運営されています。



小牧 多賀子

「無題」石塑 高さ40cm

静かで端正な女性美を表現することでは、国内で評価の高い小牧多賀子。安定したペースで、常に新しい作品を生み続ける小牧の最新作。彼女の作品はすべて一体物である。

DFJ会員のための特別提供価格
¥125,000- (送料込み)



マダム・リネ・コレクション葉書セット 会員¥800



マダム・リネ監修ドール・ハウス 写真集
「マッド・ハウス」 会員 ¥4500

*お申し込みは、会員専用の注文用紙でどうぞ